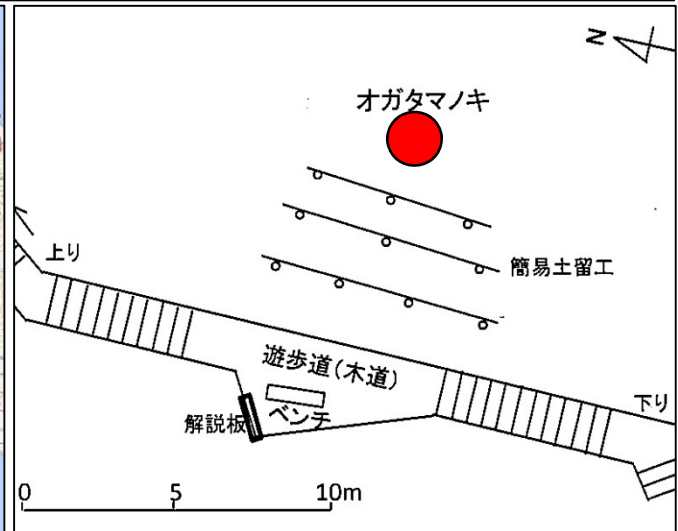


シランキー



認定番号 70

樹種名	オガタマノキ	科名	オトギリソウ科	方言名	ドウスヌ	学名	<i>Michelia compressa</i> (Maxim.) Sarg.
形状・寸法	樹高 16.0 m	胸高周囲	3.3 m	根本周囲	3.9 m	樹幹占有面積 76.0 m ²	
	枝下高 6.2 m	枝張	東 4.0 m 西 6.5 m	南 2.7 m	北 6.5 m	最大樹冠幅 10.5 m	
通称	シランキー、シラキー		樹齢 200年以上(推定)				
所在地	東村字有銘29-1		所有者		1 国 2 県 ③市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明		
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 ⑩その他 (森林)		状況		1 単木 2 樹叢中 ③樹林中 4 その他		
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 ③市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 その他 7 なし		気象条件		月		
			地点:名護 年度:2016年 (気象庁HP)		1月	2月	3月
周囲の状況	①樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()		平均気温(°C)		16.7	16.1	18.1
			降水量(mm)		237.0	123.0	212
土地傾斜	1 平坦(0~5°) ②緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:		平均風速(m/s)		4.0	4.5	3.7
			風向		NNE	S	S
土壌	①堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()		月		7月	8月	9月
			平均気温(°C)		29.6	29.4	28.2
基岩・母材			降水量(mm)		101.0	172.0	359.0
			平均風速(m/s)		3.6	3.0	3.8
地形	①山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪地 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他		風向		S	NNE	SSW
			年平均気温		23.6 °C		最高気温 34.1 °C
土性	①砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない		年降水量		2280.0 mm		最低気温 5.5 °C
			潮風の影響		①なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)		
根元及び周囲の植生	草本 ①密生 2 疎 3 なし 低木 ①密生 2 疎 3 なし		日照条件		1 良い ②普通 3 やや不良 4 不良		
			周辺樹木の影響		1 なし 2 わずかにある ③ある 4 かなりある 5 深刻((状況))		
			周辺根元の状況		1 土壌の固結がなくきわめて良好 ②固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし		
			周辺樹木との関係		1 影響なし 2 僅かに影響を受けている ③かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている		

管理状況	1 柵 a 有 ②無 (有の場合の高さ m 材質 柵内面積 m ²) 設置年	
	2 支柱 ②有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 ③無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ②無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 ②無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 ②有 b 無 7 避雷針 a 有 ②無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 ②無 9 その他	
過去の治療歴と内容	台風によって折損した大枝が基部から切除され、切除部は開口空洞となっている。開口部はウレタンで処理されているが、劣化が著しく、欠落が生じている。	
故事来歴	1 無 ②信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明	
視認性	①遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)	
特記事項	1 動物生息 a 有 ②無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 ②有 b 無 (有の場合植物の種類 ハマイヌビワ) 3 見学・参観者 ②有 b 無 4 その他 観光スポット	

地上部の衰退度判定（認定番号70）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 2.27

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

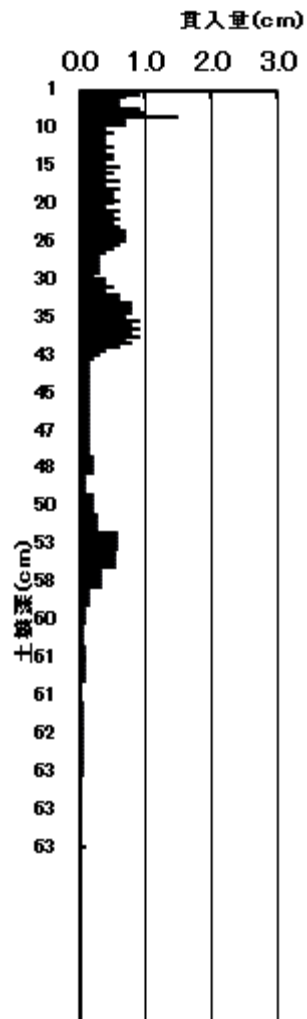
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係				
根返り				
幹折れ				
大枝折れ				
中・小枝落下				
幹の傾斜の増大				
その他()				

土壤調査結果

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	7.5YR3/4	0-5	細粒状	壤土	6.0	1.9
II	7.5YR4/4	5-10	粒状	砂壤土		
III	10YR5/3	10-26	堅果状	砂壤土		
IV	7.5YR5/4	26-	塊状	砂壤土-壤土		

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・砂礫(台地)質黄色土、国頭礫層 ・根株の斜面下方において土壌の浸食流亡が認められる。 ・土壌の浸食を受けやすい砂礫台地上に生育するため、当該木周辺は開空率が高く、雨滴や樹幹流によって更なる土壌の浸食・流亡が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・裸地化した表土を植生で被覆することを検討する。 ・斜面下部に土留柵が設置されているが、その上方にも設置を検討する。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・根張は発達し、形状は安定している。 ・斜面下部の露出根に長さ 70cm、幅 10cm にわたる開口腐朽が見られる。 ・地際部に縦 10cm、横 2cm の腐朽がみられるが、芯には達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・幹は地上 6.2m で 3 又するが、最も直径の大きい枝を含む大枝 2 本が台風により折損している。 ・折損部位は切断され、ウレタンで処置が施されているが、劣化が著しく亀裂、剥離が生じている。 ・樹形は歪で、樹皮の活力は乏しく、折損部位から筋状に根本付近まで壊死が見られる。 ・幹内部は腐朽が進行していると推定される。幹内部の腐朽部の除去は困難と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウレタンの除去を検討する。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・枝数が少ない。 ・中枝から萌芽枝が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大枝基部の腐朽程度について詳細調査を検討し、著しい場合はワイヤロープ等で牽引することを検討する。 ・基部にかかる重量を軽減するため、葉量の増加を観察しながら枝先の切り落としを検討する必要があると考える。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・葉色は中庸である。 ・葉量は乏しいが、萌芽枝の発生、成長により、着葉量は若干回復する傾向にある。 ・食葉性害虫(種不明)の摂食痕が認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経過観察を検討する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・幹の樹皮及び切り落とされた大枝の腐朽の様相から、幹内部は腐朽が著しく進行しているものと推定される。 ・大枝基部の腐朽程度を詳細に調査し、内部腐朽が著しい場合は、大枝を支持するのは困難なため、ワイヤロープ等で牽引を検討する必要がある。 	

